

かなえ

No.

433

令和7年12月24日
since 1948発行 飯田市鼎公民館
編集 鼎公民館広報委員会 TEL.0265-22-1284

盛況だった鼎ふれあい広場・文化祭 新たな企画も人気



風越高校書道パフォーマンス

温故知新

公民館長 笹 行夫

秋の好天に恵まれた11月1日、2日の両日、多くの来場者を迎えてふるさと鼎ふれあい広場・文化祭が開かれました。開会式に続く恒例の飯

田風越高校書道部による書道パフォーマンスの今年の字は「温故知新」。戦後80年、昭和100年など話題になりましたが、鼎にとつても今年は鼎村が誕生して150年に当たります。文化祭の展示の中にも例年の展示に混じってこの節目を意識したもの

が見られました。戦後の80年をとつても、占領下の日本国憲法の制定から高市政権の発足まで、思えば遠くに来たものです。行く先を見据え、この機に先人たちの目指したものと思いをはせるのも大切だと感じました。

(関連記事は2面)

えんじょくせい

今年の夏は暑かつた。
真夏日が66日・猛暑日は22日あつたのだから仕方ない。地球温暖化のせいだ。

気温だけではない。「シャーシャー」と鳴くクマゼミや羽根の先が黒い橙色のツマグロヒヨウモンは、以前この辺にはいなかつた暖地系の昆虫だが、今では普通に見られる。

更には、1時間に100ミリを超える猛烈な雨があちこちで降り、それに伴い災害が多発している。これも地球温暖化のせいである。

この夏のテレビは連日、「命を守る行動を」と呼びかけていた。暑さにしても昆虫にしても集中豪雨にしても、迫りくる危険から身の安全を確保する行動が求められた。

「自分の身は自分で守る、他人の世話にはならない」なんて意地を張らずに、できそうにない時は誰かを頼つてほしい。そんな時心強い味方はお隣さんである。日頃から隣近所と良好なコミュニケーションをとることが「命を守る」一番の方法と信じる。

まずは、「挨拶」からはじめよう。

(中平 Y・Y)

2025

11月1日~2日

ふるさと鼎ふれあい広場・文化祭

3,000人が集う

茶屋町太鼓鼎



今年度の「ふるさと鼎ふれあい広場・文化祭」は、二日間を通して例年以上に多くの皆様にご来場いただきました。各分館・団体等の皆様には体育館の展示や大駐車場での模擬店出店にご参加・ご協力をいただき、大変賑やかな催しとなりました。また、風越高校の生徒さんによる

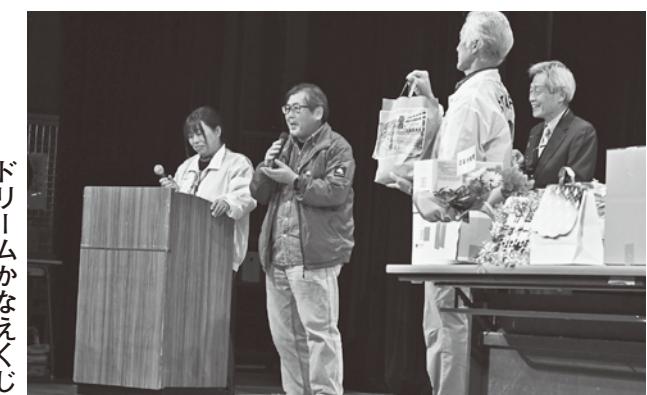
茶道パフォーマンス、力強い太鼓の演舞、元気あるダンスパフォーマンス、特色的ある音楽の場などがあります。

今年度の「ふるさと鼎ふれあい広場・文化祭」は、二日間を通して例年以上に多くの皆様にご来場いただきました。各分館・団体等の皆様には体育館の展示や大駐車場での模擬店出店にご参加・ご協力をいただき、大変賑やかな催しとなりました。また、風越高校の生徒さんによる

笑顔であふれた充実の二日間

文化委員長 林 篤史

書道パフォーマンス、力強い太鼓の演舞、元気あるダンスパフォーマンス、特色的ある音楽の場などがあります。



模擬店



木工体験(ドリームカー作り)



鼎小学校フラワーエンジェルス

入賞／名前《タイトル》

最優秀賞／深谷 律子
《雲》

優秀賞／横田 和久
《鼎を彩る華》

佳作／尾澤 一郎
《鼎の子》

公民館長賞／唐沢 聖
《赤鬼が来た！》

審査員賞／筒井 崇博
《舞い落ちて終の輝き》

応募点数17点（応募者数11名）
今年度も文化祭来場者に投票していただき、審査員評価も合わせて決定しました。

鼎の景観写真コンテスト



最優秀賞 「雲」 深谷 律子



秋の収穫体験 すく

夢かなえ隊 村澤俊彦

9月21日(日)、名士

熊の水田で「すんすん隊稻刈り体験」が開催されました。前日の雨が嘘のように当日は晴天に恵まれ、多くのご家族が参加しました。鎌や機械を使って稻刈りを体験し、手段あまり水田に触れることなく機会のない方々にもご参加いただきました。米作りの大変さや収穫の喜びを実感し、参加

た活動は子ども達の小さな思い出になると思います。その思い出がきっと大人になつてからも、地域や農業への関わりにつながっていくと思います。お米の価格は上がっていますが、お米をしつかえり食べていきましょう。

者全員で実りの秋を感じながら笑顔あふれる一日となりました。こうし

技術による演出もあり、見ごたえのある作品として完成いたしました。是非ご鑑賞ください。

2回お父さん学級へ参加
去る9月28日(日)、第

関島龍介



学校校歌」です。地元に暮らす我々も、遠く故郷を離れた方々も、本作を観て故郷鼎を思い出し、校歌を口ずさみたくなるような作品を目指しまし

制作委員代表
西村伸吾



西鼎
金田
正昭さん(82歳)

地域の人たちに 助けられて今がある



早朝から畠仕事に精を出す元気な男性。今回は、西鼎区にお住まいの金田正昭さんをご紹介します。

金田さんは昭和34年に西鼎へ来られ、昨年までは会社勤めをされてきました。地域活動では、鼎少年団の西鼎支部長、鼎公民館の西鼎分館長、鼎まちづくり委員会の西鼎区長を歴任されました。区民からの信頼はとても厚く、今でも金田さんを頼って相談する人が大勢いると聞きます。現在は、鼎地区勤労者協議会（勤労協）の会長を10年程務められ、活動的な日々を過ごされています。

金田さんは、近所にある勤労協が管理する“日曜菜園”という畠に40年以

上毎日通い、多くの野菜を栽培しています。この時期は、キャベツ・ネギ・大根・かぶ・白菜などがたくさん収穫できるそうで、金田さんは日頃からお世話になっている地域の皆さんに無償で配って差し上げているとのことでした。

「自分ひとりの力じゃ生きていけんのな。地域の人たちにはいろいろと助けられたんだに」と清々しい笑顔でお話しくださる金田さんの表情には、活力がみなぎっています。“日曜菜園”はまだ区画に空きがあるので、野菜作りに興味がある方は鼎公民館(22-1284)を通して金田さんまでお気軽にお問い合わせください。

(取材：斎藤鉄平)

かなえびと

No.61

ワンデーマーチピンバッジデザインコンテスト

佳作3名・ 応募者総数25名	優秀賞	大賞
藤根夏菜子さん(切石)	平澤初彩さん(下茶屋)	石原清加さん(上山)

編集後記

日々、物価高騰に翻弄されたこの一年、一服の清涼剤となつたのは映画「国宝」でした。出自と継承の問題を軸に、見事に伝統文化を描いた金字塔的な作品だと思います。

生成AIの進化に驚かされる一方、人間力の素晴らしさを再認識する機会でした。本報も活動全般に関わる人間力を伝えていきたいものです。(G)



下山花
井心成
(6年生)

か
な
え
つ
子

No.135